

天明5年（一七八五年）岸本浦から奈半利まで船で米を運んだ帰りに、激しい風雨に襲われ、無人島（現在の鳥島）に流された長平は、島に住むアホウドリや魚を捕って生活しました。

その後、流れ着いた12人の仲間らと船をつくり、12年4カ月間生活した島を脱出しました。

無人島の生活は孤独との戦い、仲間との出会い、協力と生きるためのたくさんの知恵が生まれました。そんな無人島生活をした長平をたたえる祭りは今年、第10回を迎えます。

今回は5月13日に香我美町岸本海岸で行われた

「無人島長平まつり」を紹介します。

長平の墓が草にまみれて不びんに思った岸本町青年団が昭和元年、長平の無人島

での話をつづった「野村長平物語」を1円50銭で販売し、

その資金で墓の隣に長平の記念碑を建立しました。



記念碑は平成18年に移築され、長平像と一緒に香我美駅前へ

生還200年目の平成10年には、岸本地区で、無人島長平まつりが行われました。

最初は地域で1回きりと思った祭りが、教育委員会の



ふん装し、審査を受けるまちの長平さん

長平の不屈の精神を学んで

手助けもあり香我美町内の一行事に成長し、今では香南市のイベントのひとつです。

当時、海を舞台にした競技を考えた、いかだレース

には、今年市内外から過去最高の22チームが出場しました。

「知ったチームが出ると応援にも力がある。市内北部

の地区も、いかだを組んでチャレンジしてくれる。地域同士の交流にもなることが良い」と中村さん。

岸本地区の住民も北部の祭りに参加し、相互交流をしています。

イイベントでは『砂浜オリピック』を通じて、「あきらめないこと」や「協力する

こと」の意味を再確認する競技も多くありました。



無人島長平まつり実行委員長 中村豊さん

編集後記

▼春の叙勲を受章された方たちに共通していた「仕事を楽しむ姿勢」と「笑顔」。いつも取材で、栄養ドリンクのようなお話を聞くことができるのは役得です。

（井）

▼初めて参加した長平いかだレース。前日の練習の成果を発揮すれば、入賞間違いなし！と意気込んで沖へ漕ぎ出したところ、健闘むなしく7位。来年こそは…と美味しいお酒を呑みました。

（m）

▼今回特集した「弁天座」6月には一般公開。施設を借りたと思った人には案内もしてくださるそうです。赤岡に現れた、ちよっと現実逃避できそうな異空間。ぜひ、体験ください。（N）

おわびと正

▼5月号「まちの予算と仕事でメガワットソーラー事業費は、1千万円」でした。おわびして訂正いたします。

《広報へのメール》

kouhou@city.kochi-konan.lg.jp

《香南市のホームページ》

http://www.city.kochi-konan.lg.jp